



通夜の意味とその内容

葬儀に先立ち行われる通夜は、親族や知人とともに故人の生前のことを語り合い、また、僧侶の読経中に故人の安穩を願って焼香供養を行います。なお、大安寺では剃髪・懺悔・授戒を行い故人に仏弟子となっていたたく儀式を執り行っています。今回は、その儀式の流れと内容についてお伝えいたします。

○剃髪（髪とともに執着を断つ）…『剃髪の偈』
「流転三界中 恩爱不能断 棄恩入無為 眞実報恩者 剃除鬚髮 当願衆生 永離煩惱 究竟寂滅」

（あらゆる世界をさまよい続けるわたしたちにとつて 父母家族との恩愛を断って出家することはまことに忍び難い。しかしこの恩愛を断って仏弟子となり仏さまの世界に入る人こそ、真に父母家族の恩に報いる者である。髪の毛とひげを剃り落とすとき、故人のために皆でひたすら願う。煩惱の苦しみから永遠に離れいつまでも安らかであることを）

○懺悔（自らの行いを省み、清浄な身と心となる儀式）…『懺悔文』「我昔所造諸悪業 皆由無始貪瞋痴 従身口意之所生 一切我今皆

懺悔」（これまでの行いのなかで生じたいくつもの罪悪は、自分の心に潜む欲と怒りと愚かさの原因となり、行いと言葉と意識によって生じたものである。今、その一切を仏さまの前に懺悔する）

○授戒（仏弟子となるために自らを律する戒律を授かる儀式）…

『三歸戒』「南無歸依仏 南無歸依法 南無歸依僧」（お釈迦さまは真理を説く師であるから、心の拠りどころとする。その教えは優れた薬のようであるから、心の拠りどころとする。教えを実践する仲間が勝れた友であるから、心の拠りどころとする）

『三聚淨戒』「第一 摂律儀戒（一切の悪事を行なわない）第二 摂善法戒（すすんで善行に努める）第三 摂衆生戒（他者のために尽くす）」
『十重禁戒』「第一 不殺生戒（いたずらに生き物を殺さない）第二 不偷盜戒（盗まない）第三 不貪淫戒（淫欲を貪らない）第四 不妄語戒（騙したり嘘をつかない）第五 不酤酒戒（酒に溺れない）第六 不説過戒（人の過ちを責め立てない）第七 不自讃毀他戒（慢心をもったり人をけなしたりしない）第八 不慳法財戒（教えも財産も他人に渡すことを惜しまない）第九 不瞋恚戒（怒りで我を失ったりしない）第十 不謗三宝戒（仏法僧の三宝を謗らない）」

れた称号)

※仮位牌に記される「新歸元」…故人が無常のこの世を去り、万物が生まれ、滅する本元へと新たに帰ることを意味する言葉。

※戒尺…僧侶に戒律を授ける際に用いた法具。故人が戒を守るよう、覚悟の念を生じさせるために打ち鳴らされる。

○『三歸礼文』…
自歸依仏（自ら仏に帰依したてまつる） 当願衆生（当に願わくは衆生とともに） 体解大道（大道を体解して） 発無上意（無上意を發さん）

自歸依法（自ら法に帰依したてまつる） 当願衆生 深入經藏（深く経藏に入りて） 智慧如海（智慧海の如くならん）
自歸依僧（自ら僧に帰依したてまつる） 当願衆生 統理大衆（大衆を統理して） 一切無礙（一切無礙ならん）

（自分の意志で仏に帰依（信仰）し、よりどころとします。人々と共に祈ることは、大いなる仏の道を体得し、無上の悟りに向かう心を起こしますように。自分の意志で法（仏の教え）に帰依します。人々と共に祈ることは、深く經典（教え）を学んで、海のような大いなる智慧を得られますように。自分の意志で僧（仲間）に帰依します。人々と共に祈ることは、人々が争われない和合の集いを持ち、なものにも妨げられない自由な境地を得られますように）

○読経中焼香…『修証義』『妙法蓮華經如来寿量品偈』等
※焼香の回数を目安は二回（一回目はおしいただき、二回目はおしいただかない）だが、会葬者が多い場合は、一回でも構わない。

○通夜説教…
故人の人柄や遺徳を遺族・会葬者と共に偲ぶとともに、戒名に込められた意味や、遺族が今後どのように悲しみを乗り越えていくべきかについて導師が行なう説教。

通夜はかつて、文字通り「夜を通して（徹して）」行われた甲いの行事でありました。遺族や親族、地域の方々が集まり、故人の思い出話を語り合ったと言われています。また、その起源は、お釈迦さまがお亡くなりになった（涅槃に入られた）後、お弟子さんや信者が集まり、何日にもわたってお釈迦さまが生涯を通して説いたみ教えについて語り合った逸話にあります。昨今は社会状況の変化によつて、通夜が行われない葬儀が都市部で増加傾向にあるようです。通夜が持つ意味を共に再認識し、できる限りこの仙事を長く受け継いでいきたいものです。また、戒名は本来生前に授かっておくべきものです。大安寺では、今後も血脈授与式の実施などを通して、檀信徒の皆さんに出来る限りその機会を提供して参ります。

※導師は以下のように述べ、戒名の記された血脈を授与している。

「さて、これまでに十六条のすべてを授けおわたたわけですが、釈迦牟尼仏より、仏の正法を受け嗣いできた方々は、みな仏の位につき、そしてまた、正法を次の弟子に授け、その系譜を記したものが血脈であります。したがって、ここにいう血脈は、仏が仏に授け、祖師が祖師から授け、菩薩としての誓願に生きた大乘戒を授受してきた『しるし』のそれであります。すなわち、仏祖が仏祖へと、まじりけなく、つぎつぎに正しく受けついで、わたしにおよんだのですが、これを今、亡くなられたあなたに授けます。どうか、この身が、仏となるまでおしいいただき、まもり・たもつようにしてください」

「世の諸々の人びとは、なにびとを問わず、仏祖の大戒を受けるといふことは、そのまま、もろもろのみ仏の位に入るといふことであります。さればこそ、今あなたは、大覚―大いなる覚者、すなわち釈迦牟尼仏と全く同じ位にすでにのぼられております。これこそ、真の仏のみ子と申すのであります。おおいなる、いつくしみの心と、あわれみの心もち仏戒を受け、仏戒に摂せられて、ともに仏と成りました。ともにみ仏に帰依いたします」

※戒名…戒を授かった仏弟子の証。○○（道号）字○○（戒名） 信士（位階）故人に授けら

行事報告

キャンドルライト寺 yoga 二〇一九秋
去る十月四日、二十名の方にご参加いただき、キャンドルの灯が揺れる中、ヨーガと夜の坐禅を体験いただきました。次回の開催は令和二年六月頃を予定しております。

